

## 伊東市教育委員会定例会会議録

- 1 日 時 令和7年8月25日（月曜日）  
午後2時30分～午後3時45分
- 2 場 所 伊東市役所低層棟1階展望ギャラリー
- 3 出席者 委員 遠山 泰範（教育長職務代理者）  
委員 辻 恵                      委員 北岡 ゆうこ  
委員 秋山 佳輝
- 4 参 与 教育部長 西川 豪紀      次長兼教育総務課長 杉山 宏生  
教育指導課長 森田 まり      幼児教育課長 鈴木 慎一  
生涯学習課長 山下 匡弘
- 5 事務局 教育総務課課長補佐 石川 貴士      主幹 藤原 真紀
- 6 会議の経過

**遠山教育長職務代理者**：ただ今から伊東市教育委員会8月定例会を開会する。  
議事に先立ち事務局からの報告を行う。

（事務局から資料確認）

**事務局**：傍聴希望者が2人いるので、傍聴を許可するか職務代理者に伺う。

**遠山教育長職務代理者**：2人の方からの傍聴の申し出について、傍聴を許可したいと思うが、いかがか。

（異議なし）

**遠山教育長職務代理者**：承認が得られたので、傍聴を許可し、傍聴人に入室していただく。

（傍聴人入室）

**遠山教育長職務代理者**：議事に入る前に、会議の非公開について諮りたい。本日の日程のうち、各課報告において、教育指導課から生徒指導の報告がある場合には、伊東市教育委員会会議規則第9条により秘密会としたいと思う。賛成の委員は挙手を願う。

（挙手全員）

**遠山教育長職務代理者**：承認が得られたので、教育指導課から生徒指導の報告

がある場合には秘密会とする。

**遠山教育長職務代理人**：議事に入る。始めに、各委員からの報告をお願いする。

（報告事項なし）

**遠山教育長職務代理人**：次に、議題に入る。本日、議決事項はないので、報告事項の教報第13号「伊東市青少年補導センター設置規則及び伊東市議会議員等の報酬及び期末手当の支給並びに費用弁償条例に基づくその他特別職の非常勤職員の報酬支給規則の一部を改正する規則について」を議題とする。

（山下生涯学習課長から資料に沿って説明）

**遠山教育長職務代理人**：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

（意見・質問なし）

**遠山教育長職務代理人**：報告事項を終了する。次に、その他「常任福祉文教委員会協議会の報告について」を議題とする。

（山下生涯学習課長から資料に沿って説明）

**遠山教育長職務代理人**：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

**D委員**：予定工期が9月上旬から翌年2月末ごろということだが、その期間は、夜間の使用ができないことになるのか。

**山下生涯学習課長**：全ての照明を一度に取り替えるわけではないので、工事期間中の夜間に使えないことはないが、昼間であっても、高所作業車が入るような場合には、グラウンドが使えない期間もあると伺っている。

**A委員**：子どもにスポーツをさせている保護者と話をしていると、この酷暑だから夕方から夜にかけての活動に移り変わっている話も聞くので、夜に使える形を整えていくことは大事だと思う。夜間設備が整うような見直しをしていたらと思う。

**遠山教育長職務代理人**：その他、何か意見・質問はあるか。

（意見・質問なし）

**遠山教育長職務代理人**：次に、その他「各課報告について」を議題とする。

**杉山次長兼教育総務課長**：伊東市教育機関職員採用試験について、8年度採用の幼稚園教諭については、5人募集して、7月26日（土）2次試験の面接後、

8月6日（水）に第5回試験委員会を実施し、選考の結果、2名の合格者を決定し、内定を通知した。なお、これを受け、2次募集を開始し、本日から9月19日（金）までを募集期間としている。募集人員は3人となる。続いて、小中学校の規模及び適正配置に関する基本方針（後期方針）（案）について、7月31日まで実施したパブリックコメントについては、14人の方から82件の意見をいただいた。方針案に対しての具体的な意見のほか、願望的なものも含まれているが、回答については現在、事務局で整理をしているところである。また、当初8月中に基本方針を策定する予定でいたが、今のところ決定するには困難な状況にあることは、先月の定例会で報告したとおりであるが、先月の段階では、市長が、7月中に辞職する意志を示している中での報告であったが、辞職の意志を撤回したため今後、市議会の9月定例会により、どのような流れになっていくのかは今のところ不透明である。

**鈴木幼児教育課長**：1点目は、伊東市幼児教育の質の向上研修を計画した。10月30日に、宇佐美幼稚園を対象に、主に発達教育を専攻されている静岡大学教育学部の田宮縁教授を講師に招き、公開保育を実施するものである。現在、伊東市の幼児教育については、園児数の減少もあり、クラスの少人数化や少人数に伴う複式学級編制など、どのように子どもたちの教育を組んでいくのか、計画をしていくのか、現場職員の悩みでもあるところである。そういったところの1つの道筋として、実際の保育を公開しながら、専門家の先生にアドバイスをいただくというものが今回の内容になっている。伊東市はこういった課題の背景から、静岡大学の田宮教授、それから県こども未来課の幼児教育推進室と連携を含め、教育指導課と幼児教育課で様々な研修を企画しているところである。その第1弾として、9月11日にも田宮先生と県と協力をして、保・幼・小連携研修を実施していく。10月30日は市役所に会場を移して、田宮教授による事後研修会ということで、今後の幼稚園・保育園・こども園化を見据えて、共通した保育、そして小学校への接続の一助になればと考えている。続いて、第3期伊東市子ども・子育て支援事業計画である。4月からこの計画に基づいて進めているところである。保育園や幼稚園、また学童保育を今後5

年間、必要なニーズに対応して、どのぐらいの見込みを持って、どのぐらい提供をしていくのかといったことが主な計画の内容となっている。計画の策定体制で、子ども子育て会議という審議機関がある。様々な関係者から意見をいただいたり、就学前児童のいる世帯や小学生児童のいる世帯を対象にアンケート調査をしたり、就労の意向があるのか、また世帯の状況を踏まえて、将来的に保育園へ預けたいか、そういったところの数値を出しながら、5年間の見込みを立てた。計画としては、第3期ということで、1期、2期から5年計画を更新したものになっているが、今回、第8章として、伊東市子どもの未来サポートプランという章を作った。子どもの貧困対策の推進に関する法律が施行され、市町においても貧困対策に対する対応の計画を立てなければいけない。努力義務の計画であるが、法律の規定に基づくプランになっている。幼児教育課、子育て支援課、社会福祉課等が、現在の政策の中で子どもの貧困対策として立てた計画を掲げている。広く子どもたちの生活、今後の貧困の対策を市としても、課を横断して、連携して進めていくという位置づけになっている。

**山下生涯学習課長**：特になし。

**遠山教育長職務代理者**：各課の報告について、意見・質問はあるか。

**D委員**：子ども食堂などいわゆる民間の協力もかなり数多く充実されている。今後、伊東市子どもの未来サポートプランを検討いただく時には、民間の方もかなり前向きに捉えている団体が多いから、ぜひ関心を持っていただいて、官民一体となって一緒に取り組んでいけたらと思った。

**鈴木幼児教育課長**：今回、初めて努力義務の中で、章立てができたところになるが、今回の計画は、あくまで市の政策を位置づけた、体系づけたものになっている。今後も子ども子育て会議を開催する中で、今のような意見や官民連携の政策がさらに広がっていくように、幼児教育課と子育て支援課と協力しながらやっていきたいと思う。

**C委員**：旅館関係の方が子ども食堂をやられていると聞いて、当日は行けなかったが、実際に食事をしているところや、子どもたちが遊んでいるところなどの動画を送ってくださった。個人の支援者の名前も、30ぐらい書いてあって、

たくさん的一般企業や個人の方が応援している。子どもにいろいろな食事や食材を食べてもらいたい思いがあって、寄付していることを知ってびっくりした。また、それに対して子どもたちが「今日の献立は何です」と発表みたいなことをする。そういう場があると、子どもだけのコミュニティができて、継続して行ってほしいと思う。今回、知ったのはその方だけだが、ほかにも自分のできる範囲で応援していったり、それが子どもの発育やコミュニティなどにうまく影響できたらいいと感じた。

**鈴木幼児教育課長**：子どもの生活支援という施策の中に、子どもの居場所作りを全面的に市でサポートしていく考え方があり、1人の時間を過ごす子どもたちに対して、地域住民やボランティアなどが実施する放課後の見守り、食事の提供、学習支援など、子どもの居場所作りの支援を推進する。その展開として、今は子育て支援課も子ども食堂への支援なども行っている。ここで位置づけたものが、具体的に政策として次の計画なのか、1回必ず中間期に見直さないといけない計画になっている。見直しの内容としても、そういったところがさらに充実していけばいいと思う。

**B委員**：幼児教育課、子育て支援課、社会福祉課の連携がすごく大事だと思う。やはり、単体だとそこでしか把握できない行動が、もっと重要な何かが隠れていたときに、ここの連携で情報が共有できて、こういうものが打ち出される。少し読ませてもらったが、本当にわかりやすく、まとめてくれたと思った。昨日、私が活動している子育て支援と防災のイベントを開催した。対象は子どもだけではなく、多世代の方や買い物に来られた方など、非常にたくさんの子どもも、親子連れが来てくれた。内容は、伊東消防署の職員にも協力してもらい、心肺蘇生やAEDの使い方と、栄養士会によって非常食の食べやすい作り方などを実際にやっていただいた。福祉の部分では、静岡DMATが来て、布担架やダンボール担架での傷病者の運搬の仕方や、災害用のトイレを5種類ほど用意させていただき、使い方を体験してもらうなど、自分は小さい子どもを対象に、防災のお菓子リュックのワークショップをやった。危機対策課にも避難所で使用する道具一式を借りられたので展示して、ダンボールベッドやエアマッ

トの上で実際に寝てもらおうなど、とにかく体験してもらおう体験型のイベントにした。子どもたちが思いのほか、どの子も一生懸命体験して話を聞いて、心肺蘇生の胸部圧迫も汗だくになりながら、「やり方は合っているの?」「どこが駄目なの?」と消防署の職員に一生懸命聞く子もいた。父親と一緒にあって胸部圧迫やAEDの使い方を学んだり、非常食を作ったり、色々な団体が協力してくれたことも感謝する。子どもたちが一生懸命話を聞いて、学ぶ姿を見て感動して、本当に涙が出た。こんなに一生懸命学んでくれるのだと、学校の中だけでは体験できないことなので、すごくやった意味があったと思った。私たち大人も日々の生活で慌ただしくても、視野を広く、ちょっとした細かいことにも気付いて、学びたいとスタッフとも話をした。とにかく子どもたちが元気に学んでくれたこと、体験してくれたことに本当にすごく感動した。

**A委員**：色々なところで子どもたちが体験したり、考える機会があったりすることはありがたい。幼児教育課の研修の実施も、素晴らしい取り組みだと思い、情報共有したり、一緒に学んだりする中で、見えてくることがあると思う。ぜひここに限らず、色々なところで情報を共有しながら、見直す機会を大事にしていけたらいいと思う。

**A委員**：夏休み中、大きな問題などはあったか。幼児教育課も含めてだが、夏休み中に気になった点などがあれば教えてほしい。

**森田教育指導課長**：児童生徒に関する事故や、問題行動で特別に報告のあがった案件は、1件もなかった。県全体では、自殺や自殺未遂、それを目的にした家出がすごく増えていて、警鐘を鳴らされた。学校に十分に指導することや、相談機関の案内などを子どもに直接届くように、データでも紙でも渡すことを何度もしつこいぐらい言ったが、幸いそういう報告も今のところは1件も入っていない。

**鈴木幼児教育課長**：保育園は通常運営で、幼稚園も特段、事故も全くない状況だった。

**A委員**：それを聞いて安心した。

**C委員**：学校のエアコンは問題なく進んでいるのか。

**杉山次長兼教育総務課長**：八幡野小学校、富戸小学校、池小学校だけは入札がずれたが、その他の学校には、機器を設置している最中である。ただ、電気の電力量が最終的に上がるから、配電盤の電気工事がこれから先になるので、機械が設置されてもしばらくは使えない状態になると思う。電気工事も年内には完成する予定である。

**B委員**：伊東小学校はもう足場がとれた。

**杉山次長兼教育総務課長**：閉庁日の期間もずっと業者が工事していた。子どもに注意なくまとまって工事ができる期間は貴重である。

**A委員**：子どもにしても保護者にしても、学校が始まって最初のところはすごく大事だと思う。そこのケアを充実していけるような、例えば夏休みや冬休みなど、長期間の休み明けに相談窓口ができるなど、今後そんなことも手厚くしていっていただけると、可能性として少しでも安心できる方が増えると思った。

**鈴木幼児教育課長**：伊東市子ども・子育て支援事業計画について補足説明させていただく。この計画の根本になる子どもの数は、R2からR6が、年度ベースで1年間の子どもの実績値になっている。令和6年が203人で、これを基に国の手引きに沿った方法と変換率法を用いて、5年間の推計値になっている。7年度からは210人、203人、199人と推移していくことが推計値となっているが、実際令和7年は、210人が167人になっていく。この計画は、民間と公立の保育園や幼稚園の定員を決める数値となっており、5年間の子どもの推移を下回る定員にはさせないことが、基本的な考え方になっている。民間保育園の運営費は、定員が多ければ多いほど単価が安くなるが、人数が多ければ貰える補助金は増える。入ってくる子どもが少なくなると、単価も低く入ってくる運営費も少なくなってしまうので、民間保育園は、今いる子の数に応じた定員に変更したいところが、切実な思いだと思う。定員を下げたのでもう入れないということにはさせたくないで、5年間この定員で縛って、むやみに定員を減らすことができないようにする。数値が現状と乖離がかなりある場合、見直しをしないとイケないところもある。手引きに沿って出した数字ではあったが、もう40から50の乖離がある。今年度の4月から4か月間の出生

児童数が、平均で月13人になっている。施設の運営にも関わってくるので、民間の利用定員の見直しを図りつつ、全体の中で適正な数が必要ならば、場合によっては公立保育園の再編も必要になってくると思う。民間の定員維持は絶対必要になってくるが、その分、公立で取り合いになってしまっても、結局、民間の運営が回っていかなくなることもある。1年間で40ぐらいずれると、0歳児から5歳児で240人ぐらい違う。40人のずれが1年2年経っていくと、80人、120人の乖離になってくる。それでも利用定員を維持していくことは、民間として運営がままならなくなってくるので、今までの待機児童を出さないところから、地域に点在して預けたいところが、適度に適正に預けられる体制を作っていくことが、この5年間で急に発生するのかと思っている。策定と同時にこの40人ぐらいの乖離が発生していたところは、子ども子育て会議の場で、きちんと実績値を出しながら見直しをしていく。160人ぐらいになってしまうと、今の園の規模や園数などを維持する話では、なくなってくると思う。

**A委員：**そこに付随して、今の各学校の再編などにも直結してくる話だと思う。

**鈴木幼児教育課長：**6年後はどんどんそうなる。

**A委員：**そちらの会議の動きを情報共有していただきたいと思う。

**遠山教育長職務代理者：**ただ今の説明について、意見・質問はよろしいか。

**B委員：**想定以上である。保育園もそうだが、それこそ小中学校の在り方が、重大な問題になってくる。

**A委員：**結構ショッキングな数字だと思う。これも大きな情報だと思う。学校再編の方も、今からどんどん動いていかないといけないことになると思うので、どういう進め方がいいのか、何か展望あるか。

**杉山次長兼教育総務課長：**数字の想定はあるが、地域になかなか伝わりきれていない。さらに6年後ぐらいまでは、はっきり分かっている実数と10年、15年の想定数字の考え方が説明会をやっていても埋まらない感じはある。そこをどう説明しながら理解を得ていくか。本当に数だけ見れば、統廃合を進めるしかない状況だが。

**C委員**：子どもの数が減ってきている原因として、伊東で結婚する人が少なくなっていることが前提にあるかと思った。そもそも結婚して子どもを産むカップルが少なくなっていると思った。伊東に来て住んでもらえる人を増やして、結婚して、伊東に住んでもらいたいと思う。

**B委員**：私が今、関わっている事業の中でも、母親が伊東でない方はたくさんいる。その母親たちの意見を聞くと、特に都会から来た方だと都会では、電車もバスもたくさんあるので、車の免許がなくても全然困らない。伊東に来て、車の免許を伊東の教習所へ取りに行きたいが、子どもの託児がない。託児がある三島の教習所で、免許を取っている母親が何人かいる。交通も不便で、少し先のことを考えると、長く伊東にいることを戸惑う母親も実際にいる。根本的に変わっていかないと、結婚していく方も少なくなっていく。

**C委員**：学校での、子どもの教育はすごく大事だが、そこに至るまでにファミリーが伊東に住みたい、伊東で子どもを育てたいと思う環境になってもらいたい。そういうふうに思ってくれる人がたくさんいてほしい。確かに免許を持っていないと不便だと感じると思う。

**鈴木幼児教育課長**：計画を立てた時のアンケートで、あなたのお住まいの地区は子育てのしやすい環境だと感じますかの回答が、感じないが1点、とても子育てしやすいが5点だとしたら、3点が当然多い。逆に、子育てしやすいと感じる4点と5点が22%しかいない。どんなことを要望するかで70%以上が親子でも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしいと答えている。こういったところの子育てしやすさを、市として子育て支援課と一緒に取り組んでいくことが、長い目で見た時の子育てのしやすさに繋がっていくと思う。

**C委員**：防災イベントは、遊びながら学べたり、親も買い物しながら行けたり、すごくいいと思った。自分が行きたいと思うぐらいだから、大人も子どもも楽しみながら学べる場所として、興味を持ってまた来てくれると思った。

**A委員**：生涯学習課で、お寺の子ども会を登録させてもらっているが、いろいろな団体の活動を毎年更新して登録してくれている。そういうものを自分で調べて見つける人は、数が限られると思う。年度初めなどのタイミングで、幼稚

園や保育園、学校などで情報を提供しても、親も忙しい中で、探して見つけて行こうということはなかなか難しいと思う。学校で夏休みの最初に、ほかの便りと一緒に配るなどすれば、目を通して楽しそうだから参加しようということがある。大きいイベントだけではなく、地域でこんな体験の教室があるなども含めて、情報提供していく形が少し充実できると、今の問題が多少、解消に近づければと思った。

**遠山教育長職務代理人**：その他、何か意見・質問はあるか。

(意見・質問なし)

**遠山教育長職務代理人**：教育指導課の生徒指導報告については、秘密会になり、非公開案件となるので、傍聴人は退出をお願いします。

(傍聴人退出)

(傍聴人退出後、秘密会として生徒指導報告がされた。)

**遠山教育長職務代理人**：今後の日程について確認する。

**事務局**：9月の定例会については、9月30日(火)午後2時30分を予定している。10月の定例会については、10月29日(水)を予定とする。

**遠山教育長職務代理人**：以上で、伊東市教育委員会8月定例会を終了する。

以上のとおり会議の次第を記録し、ここに署名する。

教育長職務代理人 遠山 泰範

委員 辻 恵

書記 石川 貴士